

2026.07.15 (水) 配信

shido、ニューシングル『Roger, Wilco.』を7月15日にリリース

「私たちはなぜ、届かない夢に応答するのか。」



ジャケットデザイン: Ulrica Wu, Kusa



音源等素材はQRコード
からご確認ください

▶ 『Roger, Wilco.』 作品概要

アーティスト shido が、2026年7月15日にデジタルシングル「Roger, Wilco.」をリリース。

本作は、「夢を見ること」そのものをテーマに、90年代SFやレトロフューチャーへの憧憬を取り入れた、新たなサウンドアプローチに挑戦した一曲。前作に引き続き、作詞・作曲をodi μ sblue、編曲をNumaが担当し、ノスタルジックな空気感と浮遊感のあるEDMサウンドが、夢と現実のあわいを描き出す。

タイトルの「Roger, Wilco.」が持つ「受信した」「了解した」という意味になぞらえ、届くかどうか分からない夢や希望へ、それでも応答しようとする人の姿を描いた作品となっている。

▶ 楽曲について

「Roger, Wilco.」は、“夢を見ること”そのものをテーマにした楽曲である。タイトルに用いられた「Roger, Wilco.」は、無線通信で使われる「受信した」「了解した」

を意味する言葉。遠くから届いた何かに応答し、一步を踏み出す瞬間が、この楽曲の出発点となっている。

夢は必ずしも叶うものではない。手を伸ばした先に何があるのかも分からない。それでも人は、ときに自分の身体や現実の限界を超えた場所へ憧れを抱き、まだ見ぬ景色を想像する。

本作では、そうした衝動を宇宙や信号のイメージと重ねながら描いた。届く保証のない声を追いかけること。辿り着けるか分からない場所を目指すこと。その旅路そのものに宿る意味を問いかけている。

サウンド面では、前作までのダークで内省的なアプローチから一步踏み出し、90年代SFやレトロフューチャーを思わせるノスタルジックな EDM サウンドを採用。前作に引き続き Numa を編曲に迎えながらも、これまでとは異なる新たな表現に挑戦した一曲となっている。

▶Artist Profile



歌、

shido の深海の主人公。たまにうさぎ。

幅広い音域と多様な声色を持ち、感情表現に富んだハスキーボイスが特徴。失声症との闘病経験を経て、不安や苦しみの中に宿る感情を、音楽として描き続けている。強さも弱さも、すべてが「shido」の一部。深く、静かに沈み込む世界観で、聴く者の内面に触れていくアーティスト。

【SNS LINK】

Instagram :

https://www.instagram.com/shidoyamablue?igsh=MTR1OW80b3NndmVpeA%3D%3D&utm_source=qr

X :

<https://x.com/anoshido?s=21>

TikTok :

https://www.tiktok.com/@shido_usagi? r=1& t=ZS-97UsDrsv3qy

YouTube :

<https://www.youtube.com/@shidonoshinkai/featured>

▶Lyric

横長い
縦広い
笑いたいののに
一瞬なのに

泣くばかり
泣くばかり
過ぎた日々に

漂っている
天体のように
“ライトオンミー”
心底より

“きみがすき”
この世界も
形を成す

そして
夜が訪れるたびに
忽然と消え去ったものも
あの時のぼくらと同じ
欠けることに

迂り落ちそうな
ぼくの記憶という檻にや
よろこびと名付けしてみれば
苦しんでるまま

君とのあいだから
不可解なぼくの憂いも
声色変えて消えた
それだけだ
無音のまま
また同じ夢を見た

乾いた
鈍い痛み
それを飲めば
自由になり

飛べない
飛べない
答えが出ない終わり

(セーノ)
揺れる風向き
ぼくの頭上に
風があると
知ってる、知ってる (Roger, Wilco.)

無辺な宇宙に
君の声を
探すまま

ぼくらが、ああ
知らない事
抗えない重力
枠に収められたレンズに
何度でも

迂り落ちそうな
ぼくの記憶という檻にや
よろこびと名付けしてみれば
にせもののまま

ぼくのころから
不可解な藍色が滲んだ
もう戻れないな
わかっていた
どうして涙ぐんだ

ああ、君が恋しい
ゆびに溢れ落ち
ああ、よろこびのように
forget about me
forget about me...

HEADS DOWN! STAY DOWN!